

## ー 医学系研究に関する情報及びご協力をお願い ー

当院では、以下の医学系研究を実施しております。この研究は、検案・解剖業務の過程で得られた情報をまとめることによって行います。この研究は、当院の倫理委員会の承認を得ており、文部科学省及び厚生労働省が策定した「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を守り実施されます。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

## 〔研究課題名〕

分子病理学的手法による呼吸器感染症重症化因子の探索研究

## 〔研究実施機関〕

東京都監察医務院 国立感染症研究所

## 〔研究代表者〕

林 紀乃

## 〔研究の目的・方法〕

2009年（平成21年）に新型インフルエンザとしてパンデミックとなったA型インフルエンザウイルスは、現在流行から年月が経過し季節性インフルエンザウイルスA(H1N1)pdm09として認知されています。当初はA(H1N1)pdm09感染による死亡例において、ウイルス等の精査は不十分であり、また直接死亡原因の精査も不十分でありましたが、インフルエンザ関連死亡例の分子病理学的解析を国立感染症研究所と連携して行い、インフルエンザウイルスの亜型や型によって、ウイルス感染範囲の違いや肺組織病理像などの違いがあることがわかってきました。昨今は新型コロナウイルス感染による急死例も見られ、またそれ以外の非細菌性呼吸器感染症死亡例やこれらの病原体の重複感染による死亡例も当院では認められています。

よってインフルエンザなどの呼吸器感染症（SARS-CoV-2 陰性 COVID-19 疑い例も含む）による死亡の原因となったウイルスなど病原体の検索、死に至った宿主側の要因（基礎疾患、年齢、免疫応答等）の精査を行うことは、疾病の予防・治療法の開発につながってゆくと考えられます。その為に、死亡症例の残余検体を用いて行う本研究を計画しております。

このような解析は、多数の突然死例を扱う都内唯一の機関である当院、および共同研究者の国立感染症研究所において初めて可能と考えられます。

（方法）肺、気管、気管支、唾液腺、リンパ節、脳、髄液、心臓、心嚢液など、採取した組織検体の残余を用いて、国立感染症研究所にて、インフルエンザウイルスなど病原体検索を行います。組織から検出された病原体の性状を解析します。各組織切片上で病原体の抗原やゲノムを検出し、体内における病原体の分布を明らかにします。また、血液中や組織から感染に対する生体の免疫応答に関与しているサイトカインなどのmRNAを検出し、定量します。対象例の年齢、性別、既往歴、生前の症状、主な剖検所について、検案調書および剖検記録より抽出し解析を行います

## 〔研究の対象者〕

研究認許日から2023年（令和5年）12月31日）までの間に行政解剖されたインフルエンザなど呼吸器感染症が関与していると考えられる例。2008年以降、原因不明の呼吸器感染症と診断された例。

利用する情報からは、名前や住所など個人を特定できる情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も個人を特定できる情報等は利用しません。

本研究へのご協力については、ご遺族の意思を尊重いたします。情報の使用をお断りになっても不利益を被ることはありません。研究内容に関して不明な点がある場合や情報の利用に同意されない場合には、以下にご連絡ください。

[問い合わせ先]

〒112-0012 東京都文京区大塚四丁目 21 番 18 号 東京都監察医務院  
責任者：林 紀乃